

2020年度「多摩地域市民活動公募助成」助成事業実施報告書

団体名：特定非営利活動法人自立生活センター・昭島
代表者・役職名 氏名：理事長吉澤孝行

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

公共交通に潜む「障壁(バリア)」を検証し、「誰でも使いやすい公共交通」の在り方を提案する

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。 会員数など。180文字程度まで)

重い障害を持っている人が地域で生活する為の必要なサポートを提供する為に、日本でも全国各地で自立生活センターができておらず、昭島市に任意の団体として1997年10月に設立し、2005年11月にNPO法人を取得した。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

公共交通機関の物理的な部分でのバリアフリー整備は確かに進んではきています。しかし、障害当事者の視点から見たとき、まだまだ様々な「障壁(バリア)」は存在しています。この「障壁」は、障害種別や取り巻く環境によって問題点は異なってきます。今回のプロジェクトの目的は、公共交通に潜む「障壁」を可視化する事によって、「誰でも使いやすい公共交通」の実現に何が必要なのかをあきらかにし、問題点を共有することにあります。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

都内各所にある関係団体などや昭島市内の事業所などにアンケートへの協力を呼びかけ、それらを通じて都内在住、在勤の障害当事者及び家族などに回答していただき、調査であきらかになった問題点などを、外部協力団体の交通バリアフリー事情に明るい識者などに意見をもらいながら、成果物として冊子にまとめ、公共交通機関等に送付し、今後のバリアフリー整備に反映してもらうよう働きかけや啓発活動に活かしていきます。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの「効果」 300文字程度まで

今回のアンケート調査で、関連法の改正やパラリンピック開催などもあって、公共交通機関のバリアフリーの整備が進み、それによって障害者の社会参加が増えてきたことが伺えます。その一方で取り残されている古くからの課題や、新たな問題なども浮かび上がってきました。こうした課題や問題などの背景には、バリアフリーを整備する側に「障害者も利用する」ことが当たり前のこととして、まだまだ認識共有されていないのではと思われます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

「誰でも」いつでも利用できるのが公共交通機関の基本であるはずです。けれども、この「誰でも」に障害者の存在そのものが認識されてないことが、バリアフリー整備の問題や課題の根幹にあるのではないかでしょうか。今後、こうした問題、課題の解決や改善への働きかけに、今回のプロジェクトでまとめた冊子を活かしていきたいと思います。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし